

令和7年度第2回目

小売業・介護施設SAFE協議会

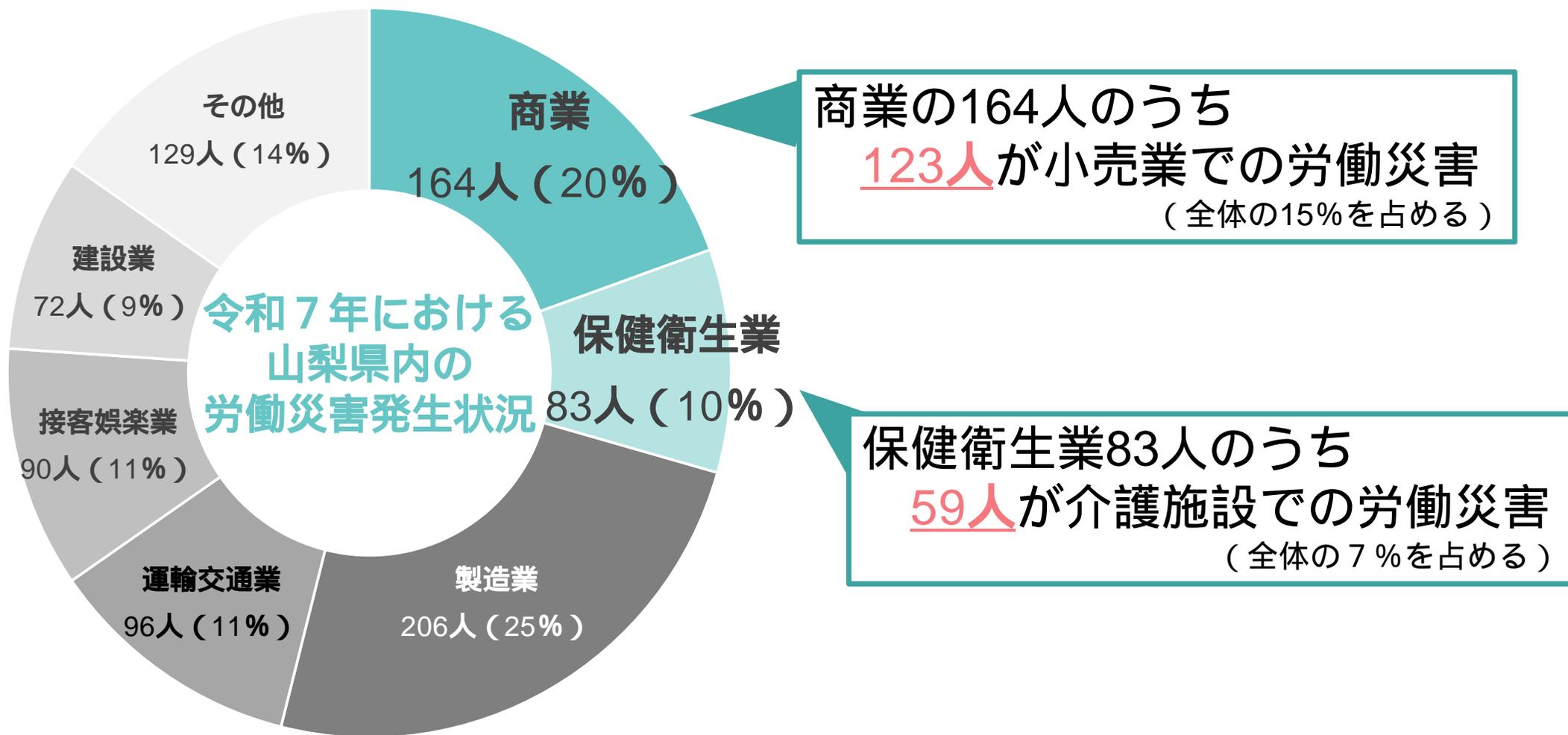
山梨県SAFE協議会事務局（山梨労働局）



1

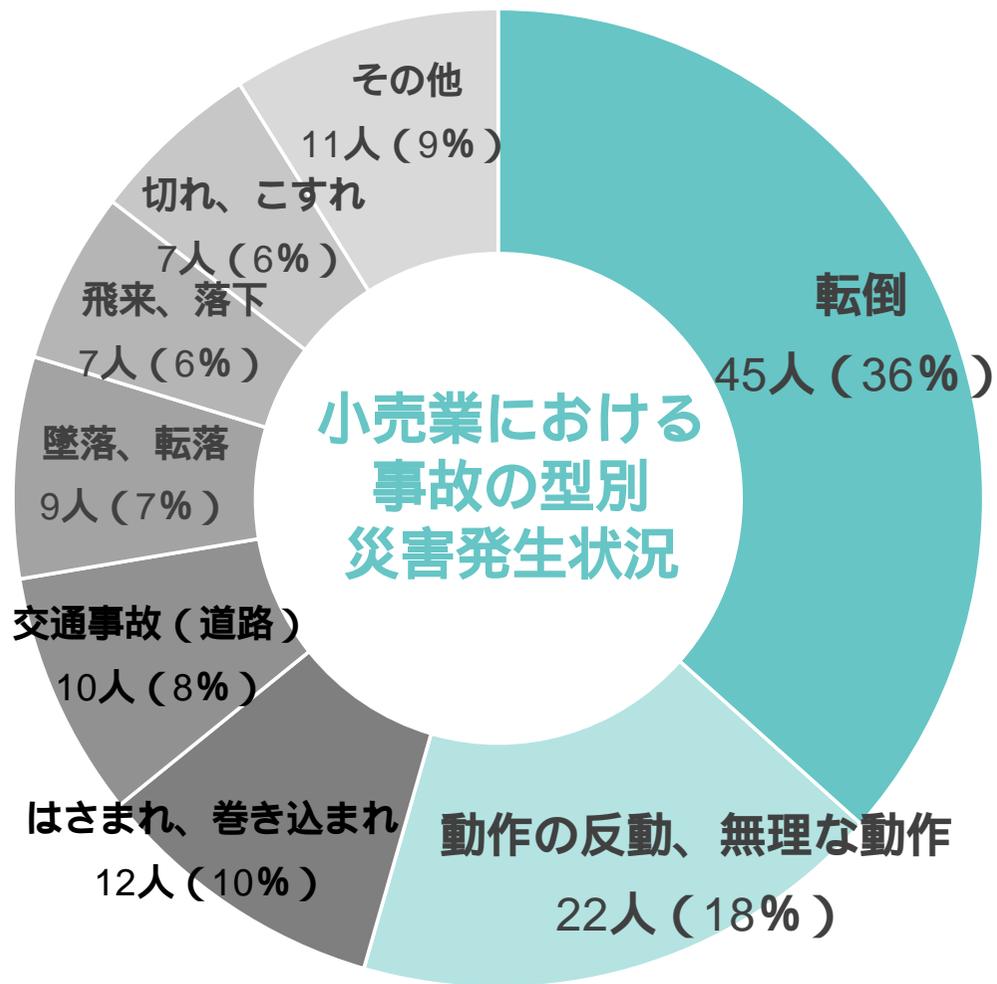
山梨県内の労働災害発生状況 【令和7年度速報値】

1 山梨県内の労働災害発生状況【令和7年度速報値】



労働基準監督署に届出された死傷病報告（令和7年1月1日から12月31日までの労働災害）から取りまとめた。以下同じ。

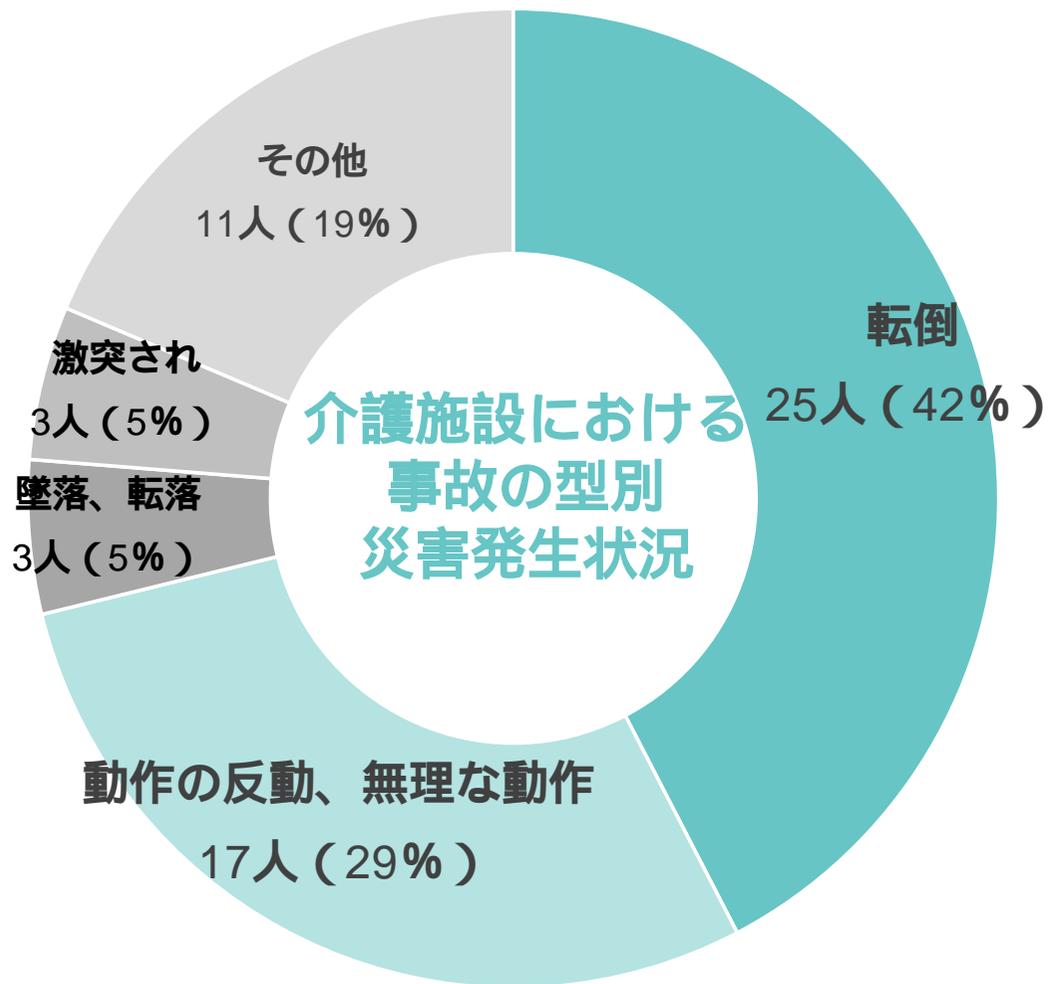
1 山梨県内の労働災害発生状況【令和7年度速報値】



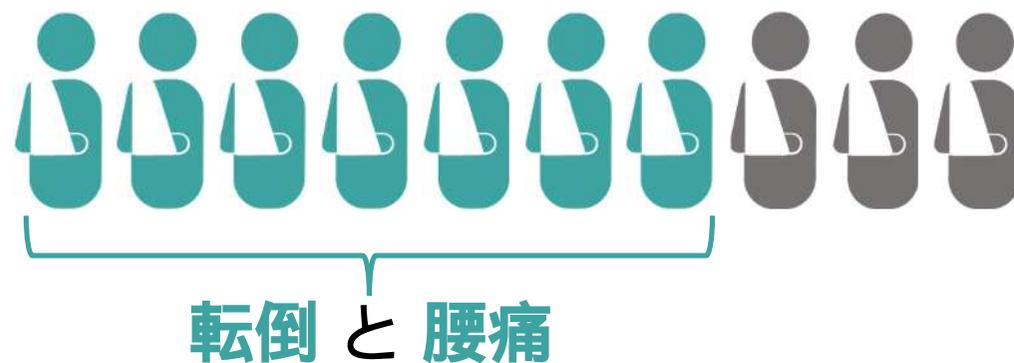
小売業で発生した労働災害のうち
転倒災害、腰痛等の災害が
約55%を占めている



1 山梨県内の労働災害発生状況【令和7年度速報値】

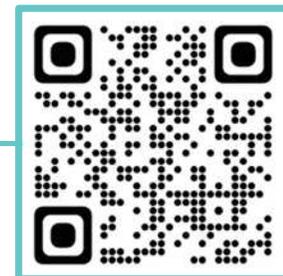


介護施設で発生した労働災害のうち
転倒災害、腰痛等の災害が
約70%を占めている



2 SAFEアワード応募事例の紹介

2 SAFEアワード応募事例の紹介



安全な職場づくり部門（小売業）



様々な転倒リスクをなくせ！ 転倒事故に重点を置いたKYT活動

事業者名	ロイヤルホームセンター(株)
業界・業種	小売業
従業員規模	約4,000名
地域	近畿/大阪

背景（課題・ニーズ）

労働災害は転倒によるものが最も多いが、内容を分析した結果その要因は多岐に渡ることがわかった。（滑り・躓き・水濡れ・不陸・不安全行動など）KYT活動をおこなっていたが、転倒に関する項目が少なく、従業員に対して転倒リスクを十分に周知できていなかった。

取り組んだプロジェクト内容

過去に発生した事故を中心に、従業員が様々な転倒リスクを事前に察知できるようにKYTシートを刷新した。KYTシートはより当事者意識をもってもらうために、事故が起きた状況をできる限りリアルに表現した。また合わせて事故防止啓蒙動画を配信し、従業員ひとりひとりが不安全行動や不安全状態に対して理解を深められるように取り組んだ。

危険予知訓練シート

整理整頓不足による転倒

事業所でのOFFJT

実際の状況を体験する

過去に発生した様々な転倒事故をKYTシートで再現

【教育動画】通路上の放置物

全事業所で視聴し理解を深める

その辺に置いておいて！

手首の骨折

やってみての効果

転倒による業務災害件数 前年比較で△50%

今後の目標や展望

今後は社内での転倒による事故ゼロを目指し、安心安全な店舗環境の改善と維持を目指す

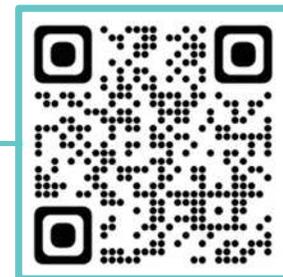
2 SAFEアワード応募事例の紹介

安全な職場づくり部門（介護事業）



腰痛予防の深化 ～組織予防と自己予防～

事業者名	社会福祉法人 彩光会 あけぼの
業界・業種	医療・福祉
従業員規模	約150名
地域	埼玉県



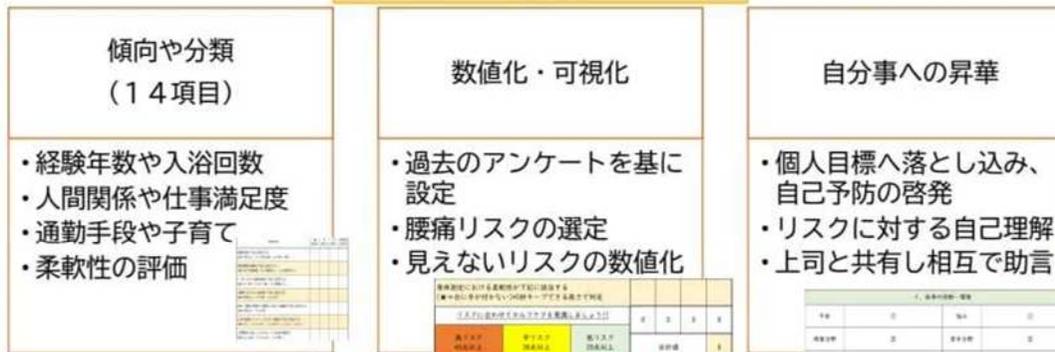
背景（課題・ニーズ）

当施設ではH28年から年に2回、腰痛アンケートを実施している。組織として【ノーリフティングケア】【腰痛発症者への復職支援プログラム】など腰痛予防や発症時のフォロー体制を整えてきた。半面、個人での腰痛予防に関する行動や認知が低い状態であり、組織と個人の双方で腰痛に向き合う方法を過去のアンケートを基に検討した。

取り組んだプロジェクト内容

- ☆過去の腰痛アンケートの見直し
腰痛有訴者の傾向・背景を分析
- ☆見えた傾向・背景を数値化
腰痛との因果関係に合わせて数値化
- ☆「腰痛チェックリスト」を作成
合計点を「低・中・高」の3段階に設定
- ☆結果を個人目標シートへ反映
個人で行うべき腰痛予防の設定

Point



やってみての効果

腰痛アンケートにおいて自己予防項目の実施率が増加!!!!
開始以降、腰痛での休職や業務制限なし!!!!
ストレッチ例を浴室にも掲示!!!!

運用前	30%
運用後	74%

ストレッチ実施率

今後の目標や展望

チェックリストの運用を行いながらの妥当性評価(再分析)
組織予防×個人予防の課題抽出と継続的運用
個人情報保護と結果の秘匿性に向けた管理

2 SAFEアワード応募事例の紹介

エイジフレンドリー部門（小売業）



Oisix ra daichi

専門家と契約し、自社に最適な行動災害対策の探求
～ 社内での体力測定から教育、運動実践まで ～

事業者名	オイシックス・ラ・大地株式会社
業界・業種	小売業
従業員規模	約700名
地域	神奈川県

背景

課題・ニーズ

現在のセンターに移る前は、安全管理特別指定事業にもなった。実際には、急成長に伴い、安全衛生活動が十分でなかった。しかし、移転後、整備と教育の両方に尽力したが、『**個人起因の行動災害が減らない**』。労基署のセミナーの受講で、今後の対策が不可欠であることを理解し、**神奈川産業保健総合支援センターの支援を受ける**。担当者らがその必要性を理解し、その後、**専門家と年間契約して、自社に最適な内容の提案をもらい、対策を実施。**

取り組んだプロジェクト内容 ① 高年齢社員への体力測定会

担当となる社員が、専門家から体力測定を学び、高年齢な社員に対して体力測定を実施。測定結果は、専門家が作成した返却資料を用いて、個人に返却。



② 朝礼時の体操

①と同時に、全社員対象に、朝礼時に体操を実施。



③ 動画教材で教育

労働災害対策について、動画教材を用いて教育を実施。



やってみての効果

体操の実施は、毎朝定着し、継続的な実施に繋がっている。特に、冷凍倉庫などで従事する従業員にとっては、**身体の冷えなども問題になるため有用であると感じている**。情報を全員に届ける上で、短い動画が有効であると考えている。

今後の目標や展望

外国籍や夜勤の従業員への実施や意識が薄まってしまいう傾向にあるため、動画教材を多言語化する等の対応を考えている。また、午後や休憩後の時間帯は、**再度身体が冷やされることによる腰痛への注意のため、体操の回数増加などを検討している**。

2 SAFEアワード応募事例の紹介

エイジフレンドリー部門（介護事業）



【エイジフレンドリー部門】



転カツ!! 腰カツ!!

職場にきて目指せ健康↑↑
～いつまでも元気にはたらく健康プロジェクト～

事業者名	特別養護老人ホーム田谷の里
業界・業種	高齢福祉
従業員規模	111名(令和7年10月)
地域	関東/神奈川県

背景(課題・ニーズ)

当施設では直近3年間(2022～2024年)で4件(内3件が50歳以上)という転倒労災事故が発生しました。介護業界もまた、総活躍社会として様々な年齢層の職員が活躍しておりますが、田谷の里も例外なく111名の職員の平均年齢49.1歳、50歳以上の職員が49名活躍しており、転倒・腰痛による労災リスクが高い状態といえます。安全衛生委員会では昨年度から続く「転カツ!～転倒予防活動～」と、新たに「腰カツ!～腰痛予防活動～」に取り組み、身体が資本の介護業界だからこそ、高齢職員が施設で働くことで自然と健康増進ができるよう意識の改善・運動の実践に取り組みました。

取り組んだプロジェクト内容

階段昇降のススメ

令和7年9月～施設内掲示にて推奨

【階段利用】

- 運動量は安静時の3.5倍
- 下半身の筋活動効果
- 心肺機能向上
- 生活習慣病予防

一般的な階段の高さは20～23cm。施設の職員階段は15cmなので運動が苦手な方も安全に昇降しやすい環境であることを宣伝した。



転倒予防運動教室開催

令和7年10月17日 第一回開催

健康運動指導士の職員が講師となり、非常階段の効果的な階段昇降を直接指導。16名の転倒労災高リスク職員(50歳以上)にお集まり頂き、実践指導を行いました。



腰痛これだけ体操

令和7年8月～エレベーター内掲示にて推奨

フロア移動時の隙間時間(エレベーターに乗っている時間)に自然と腰痛予防ができる体操を周知し実践して頂きました。

安全衛生委員会 腰痛予防月間
エレベーターに乗ってる間にやってみよう★
(乗るはずの場で実践!これがポイント!)



この3秒が大切!腰も痛れば山と登り難す!!

空手教室開催

令和7年10月9日 第一回開催

空手師範代をお招きし、腰痛予防に資する空手の型や重心移動を伝授して頂きました。8名の腰痛リスクを抱える職員にお集まり頂き、骨盤後傾位を意識した姿勢の実践指導を受けました。



取り組み結果

今回参加された方にアンケートを行い、転倒予防・腰痛予防の取り組みを受け75%以上の職員が転倒・腰痛予防の意識が非常に向上したとお答え頂きました。実際に腰痛これだけ体操で腰痛が改善された報告や、転倒を予防するために階段を積極的に使用する職員も多くみられるようになりました。健康増進を目的としたことで長く働きたいという気持ちを高め雇用を守るだけでなく、エレベーターを使わないことで環境にも優しい取り組みとして、今後も施設に出動することで健康になれるよう継続して取り組ませて頂きます。 田谷の里 安全衛生委員会

参考 (山梨県内事業場の) SAFEアワード応募事例の紹介



エイジフレンドリー部門 (製造業)



富士食品工業株式会社

事業場内の労働災害リスク箇所の安全対策

事業者名	富士食品工業株式会社
業界・業種	製造業
従業員規模	121名
地域	山梨県

背景 (課題・ニーズ)

事業場内の労働災害リスク箇所の安全対策の実施

- ① 事務棟階段手すりの未設置・・・全従業員が通行する階段の手すりが片側のみのため危険。両側に手すりを設置。
- ② 工場内の重く滑り止め機能のないグレーチング・・・滑りやすく、清掃時に持ち上げる際重さにより腰痛の危険あり。軽量かつ滑り止め機能付に更新。
- ③ 排水処理場放流槽点検時の転落リスク・・・高齢作業員がフェンスを乗り越えて作業をしている。転倒・転落事故防止のため、門扉付きフェンスに交換。

取り組んだプロジェクト内容



① 階段の両側に手すりを設置することで、高齢者だけでなく、多くの従業員に転倒の危険がなくなり、安全に通行できるようになりました。



② 工場内のグレーチングは水で濡れていることが多く非常に滑りやすく危険でした。滑り止め効果の高いグレーチングに更新することにより、転倒の危険が少なくなりました。また、軽量化により清掃時の持ち上げ時の腰痛防止効果が期待されます。



③ 放流槽の点検時には、高さ80cm以上のフェンスを乗り越えて作業していました。門扉のついたフェンスに交換することにより、高齢の作業員が安全に出入り、作業できるようになりました。

やってみての効果

事業場内の安全対策を実施後、危険箇所を改善することができました。

今後の目標や展望

ヒヤリ・ハット事例の収集と分析をし、未然防止策に活用。
高齢従業員をはじめ全従業員が安心して働けるよう作業環境の改善を推進していく。

お疲れ様でした。

